

**令和 8 年度 第 1 回こまきこども未来館講座運営会議
会議要旨**

日 時	令和 8 年 7 月 7 日（火）午後 6 時～7 時 45 分
場 所	こまきこども未来館 クラブ室（ラピオ 3 階）
出 席 者	【委員】7 名（※敬称略） 玉置崇、長江美津子、植松浩二郎、坂本輝、神戸美里 坪内里枝、大久保和則 【事務局】7 名 こども未来部長、こども未来部次長、多世代交流プラザ所長、事業推進係長、係員、NPO 法人 10 人村 2 名（受託者） 【傍聴者】0 名
会 議 資 料	次第 資料 1（体験ひろば 2025） 資料 2（講座運営評価シート） 資料 3（5 年間の講座運営における成果） 資料 4（2026 年度実施計画） 資料 5（2026 年度実施計画概要）
会 議 内 容	1. こども未来部長あいさつ 2. 報告 （1）令和 7 年度の活動について 3. 議題 （1）令和 7 年度講座運営の評価について （2）5 年間の振り返りについて （3）令和 8 年度講座等開催事業について 4. その他 （1）今後の予定について
会 議 要 旨	<u>1. こども未来部長あいさつ</u> - こまきこども未来館（以下「未来館」という。）は 3 月に開館 5 年という節目を迎え、これまで多くのこどもたちに利用いただいた。令和 7 年度も年間来場者数目標の 30 万人を達成し、大変好評をいただいている。 - 体験ひろばにおいては 200 人を超えるサポーターの皆様、142 の団体や企業との連携を通じて、こどもたちにとって多様な学びや体験の機会を提供している。その積み重ねが施設全体の魅力の向上につながっていると考えている。 - 本日は昨年度の実績報告と、それに対する評価を行う予定。今後の運営の更なる充実につなげるため、それぞれの立場から率直なご意見をいただきたい。 <u>2. 報告</u> <u>（1）令和 7 年度の活動について</u> ※受託者から資料 1 により令和 7 年度講座開催事業の説明 - 令和 7 年度は地域や企業、学校との接続が大きく広がった。新しい取り

	組みも企画し、未来館の中だけでなく、こどもたちが地域や学校、企業など、多様な人や社会とつながりながら関心を深め、挑戦できる機会をつくった。 ・特に成果として、こどもの声を「聴く」だけで終わらず、企画して形にする、場を変える、地域や学校、企業とつなげるところまで進められたことがあげられる。日常の遊びから生まれたアイデアを、こども自身が実際に企画、準備、運営まで行った取り組みなど、こどもの「やってみたい」という声からはじまり、継続的な活動へ発展するものも増えた。
玉置会長	この冊子はどのぐらい印刷し、どのように活用しているのか。
受託者	正確な数は現時点で把握できていない。お礼の意味も込めて関わっていただいたサポーターの方にお渡しする他、新しく連携や協力してもらう際の説明資料として活用。なお、昨年度からはホームページ上で閲覧できるシステムをつくり、印刷数を減らすよう取り組んでいる。 ※補足：令和7年度の発行数は500部
	<u>3. 議題</u> <u>(1) 令和7年度講座運営の評価について</u> 活動報告だけで委員の方の一から評価していただくのは難しいため、評価シートには事務局の評価（案）を記載してある。各評価項目について、評価理由を確認し、加筆・修正することで最終的に当会議の評価としたい。 ※事務局から資料2により評価シートの説明
長江委員	○活動を通じた発達の増進 【受託者（10人村）】S 【事務局】S 特に4階の乳幼児向けのエリアはここ数年、こどもたちの発達にあわせて利用できるようになっていくことを実感する。
坂本委員	○利用対象児童が日常的に気軽に利用できる環境づくり 【受託者（10人村）】S 【事務局】S 今回会議に参加したことでこどもが小さくても行って良いんだと気付くことができた。評価はそのまま問題ないが、自分にとって未来館はいつか行ってみたいけど一人で行くには不安で、一歩目が踏み出せない施設という印象を持っていた。
受託者	今後、広報媒体の利用方法を検討していきたい。 ○学びを振り返り成長を実感できる環境づくり 【受託者（10人村）】B 【事務局】A
玉置会長	振り返りはアンケートによるものか、対話によるものか。

受託者	両方。講座の後には参加者に対してアンケートを実施、継続的に来館しているこどもには活動後の対話を通して振り返る機会を設けている。
大久保委員	『こまき冒険スライム村』は学校教育においても求められている主体的、協同的に学ぶ取り組みであり、ぜひ続けてほしいと思う。参加したこどもと話す機会があったが、その子は「こう工夫したらもっと楽しんでもらえたんじゃないか」「来年はこうしたい」と自分たちの活動を振り返った上で、次の課題までたどりついていて。そのような振り返りが周りのこどもたちにも広がっていくことで、振り返りの質も高まっていくのではないかと感じる。A 評価とすることに異議なし。
	○様々な遊びや体験を通じて楽しみながらそれぞれの遊びを見つけ、未来リテラシーを育む取り組み 【受託者（10 人村）】A 【事務局】A
植松委員	職員の質が向上したとして自己評価を A としているが、前述の項目では職員の個人の経験や力量に依存することも多いことを理由に B 評価としていた。その意図は。
受託者	資格の取得など、職員個人個人の専門性等の向上はできているものの、組織としての体系化は十分ではないと考えている。
植松委員	振り返りは一人ひとりに関わる必要があり簡単ではない。学校の現場でも同様。方向性や、最終的にどこへ持っていきたいのかを職員間で一致させると進めやすいのではないかな。
玉置会長	新しい学習指導要領に「多様性の包摂」という考えがある。それぞれに応じた教育を進めよう、というのが大きな柱。先生が一人ひとり全員に対応するには限界があるため、自ら振り返って、自分で理解、教育していくというもの。より振り返りが大切になってくる。
	○利用者同士の関係を豊かにする交流環境づくり 【受託者（10 人村）】A 【事務局】A
神戸委員	地域児童館における異年齢交流に関する課題について話を聞く機会があった。未来館を利用するこどもと地域児童館を利用するこどもに大きな違いがあるとは思わないが何が違うのか。
長江委員	過去に児童館の館長も務めていた。学校では見られないような一面を児童館では見せるという子もいた。未来館が商業施設の中にあることに比べて、地域児童館だと近所に遊びに行く、といった気持ちの解放感がこどもたちにあらわれやすいのでは。こどもの、注目を集めたいという気持ちのあらわれの可能性もある。

植松委員	未来館職員の特徴は「特に配慮が必要なこども」のことも叱らず受け入れていること。時間を要したとしても、良い関係がつくれている。
受託者	実際「特に配慮が必要」だと感じるこどもも来館している。その子の背景まで考えられるよう、「困った子は困っている子」という考え方をもとに関係づくりを大切にしている。一方で、嫌な思いをする子の権利を奪うことはないよう気を付けている。
大久保委員	親子1対1だけでなく、家族で参加できるような機会が増えると良いと感じる。学校現場においても、親子、家族でたくさん関わる経験をしてきた子は安定している印象がある。ある程度年齢が大きくなると、見守る立場で、手を出しすぎないことが必要、その切り分けができると良い。
坪内委員	こどもの居場所はたくさん選択肢があった方が良い。保護者も巻き込んでより良い小牧市にしていこうという方針にとっても共感する。家族との思い出をたくさんつくっていける場所の一つとして素晴らしい取り組み。
坂本委員	子育てをしている中、SNSを調べたり、見たりする時間をとることは難しい。こどもと遊んでいるところにポスターが貼ってあれば、知ることができ、参加するきっかけになるかもしれない。
植松委員	受託者の課題なのか、管理側として市の課題なのか、事務局内でも検討していただきたい。
事務局	検討します。 (2) 令和7年度こまきこども未来館講座等開催事業について ・未来館は開館前のワークショップ等を通じて市民の皆様とともに形づくられた「未来リテラシーを育む」というコンセプトのもと、未来館の利用を通じて未来を切り拓く力を身につけてほしいと願い運営。こどもたちを取り巻く環境も常に変わっていく中、今後も大切に考え続けていくべき軸であると捉えている。 ・受託者は「未来リテラシーを育む」を自らのミッションとして位置づけ、講座の実施に取り組んでいる。 ・昨年度の会議を踏まえ、市では委託契約期間が終了する令和8年度末をもって全館を指定管理へ移行し、更なる効率的な運営を図ることで調整を進めている。また、不登校や引きこもりの若者への相談・支援を行う

	「(仮称) こまき子ども・若者総合相談センター」の開設も視野に入れている。 ・指定管理への移行後は原則公募となるが、例外的に「市長が特に必要と認める場合」は任意指定が認められている。「(仮称) こまきこども若者財団」を設立し、未来館及び「(仮称) こまき子ども・若者総合相談センター」を一体的に運営する指定管理者として任意指定することを検討中。横断的にこども・若者を支援する体制の構築を進めている。 ・現在、市のこども施策の最上位計画にあたる「小牧市こども計画」の中間見直しを進めており、本件について見直し案に反映する予定。今後パブリックコメントを実施し、市民から広く意見を聴取しながら方向性を整理していく。 ・こうした状況を踏まえ、これまで5年間未来館の講座運営を担ってきた受託者の取り組みや課題を改めて整理し、今後の方向性についてご意見をうかがいたい。 ※受託者から資料3により説明 ・令和3年度以降「入口をつくる」「参加から参画へ」「参画の継続的な活動へ」「声で場を変える」「社会とつながる」と推移してきた。5年間の変化とともに、職員に求められる役割も講座運営に留まらず、こどもの声や変化を捉え、支援や挑戦への伴走へと広がった。 ・今後は講座数の拡充だけでなく、こども参画や、サポーターや地域、企業とのつながりなど体験の多様性や質をさらに高めていくことが重要と考えている。あわせてこどもが安心して過ごし、興味を広げ、試行錯誤できる環境を整えるとともに、遊びを学びや人、社会とのつながりへと発展させていくことが必要であると認識している。 ・引き続き「未来リテラシーを育む」をミッションに掲げ、こどもが自ら考え、選び、他者と関わりながら未来をつくる力を育むことを講座運営の中心とする。こども性暴力防止法の施行も見据え、必要な知識と対応力を職員全体で高めていく。 《意見》
玉置会長	開館時は大型遊具に注目が集まっていたが、継続的な講座運営が行われており、その内容は当初の想定を上回るものである。
植松委員	近くで活動を見てきたが、職員が熱意を持って取り組んでいることが伝わってきた。この5年間で取り組みの幅が大きく広がった。今後は、その特化を進めていく時期に来ているのではないかと。
長江委員	年々取り組みが拡充していることを実感する。5年が経過し、単に取り組みを広げるだけでなく、その内容を振り返りながら更なる充実を図る新たな出発点となる時期に来ているように感じる。多様な背景や特性を持つこどもがいる中で、それぞれの気持ちに寄り添える未来館であってほしい。

事務局	<u>(3) 令和 8 年度こまきこども未来館講座等開催事業について</u> ※受託者から資料 4.5 により令和 8 年度講座開催事業の説明 ・令和 8 年度も引き続きミッションを「未来リテラシーを育む」、ビジョンを「安心から小さな挑戦へ 遊びと学び、人と社会をつなぐ」、バリューを「大人にも“安心”を」「こどもの声をみる、きく、しる」とする。 ・昨年度の来館者アンケート結果をもとに、中高生向けの音楽講座、小学生向けのプログラミング講座を計画。 ・『こまき冒険スライム村』は 15 日間の開催を予定し、実行委員が企画運営だけでなくプロジェクトマネジメントにも挑戦する。 ・11 月に初めて防災イベントを実施予定。 【議事について すべて承認】 <u>4. その他</u> <u>(1) 今後の予定について</u> 第 2 回こまきこども未来館講座運営会議開催の案内 ・日時：令和 9 年 2 月頃（予定） ・場所：こまきこども未来館
-----	---